

續世法牙云

612

シ

4

0

150 cm

10

SEKISUI JUSHI

20

612
7
4



續世継第六

ゆらあみ入下第六

あいらせのき

かゝ人のき

あいらのやこ

ゆきのき

あいらね

あいらのき

あいらのき

あいらのき

天正二年八月一日
 内大臣よりあるきし御年六十で大
 ねむくすうのあしきもひき康平
 二年より大にうるも如きい
 七十のやまあしき和平忠道
 一よりひきをたりきうるもい
 之のあしきうるもいひひひ我の
 一遇やうあしき人ひひひと申
 一よりひきうるもいひひひ
 一よりひきうるもいひひひ

集りてあはれなりきつる人
口よりけふ神にいのちを
まへておもうる人なり
えゆれば中にもあひねり
人の心もさういふなり
と見る人もあはれなる
よみてもうらやましい
うらやましき人なり
あはれなる人なり
あはれなる人なり

後朱雀院女御時女御よりきこまつ
るまうしきいふてんき女御や
申なるを御門へ進出せしむら
りし御り出まつる女御よりをま
まつる女御と又きこみ秋人のお
りて侍するを女御とよめしむら

あつる女御よりきこみしむら
あつる女御よりきこみしむら

其女御よりきこみしむら
おめえよりきこみしむら

宮女よりきこみしむら
お川よりきこみしむら
きこみしむらよりきこみしむら
院女よりきこみしむら
おきこみしむらよりきこみしむら
ていきこみしむらよりきこみしむら
御女よりきこみしむらよりきこみしむら
きこみしむらよりきこみしむら
つきこみしむらよりきこみしむら
おきこみしむらよりきこみしむら

何くさく人々を知らず其師は八宗後代
 大細玄師母ハ寺伯大細玄隆國君
 ひとあはるるも後結のちと逢てお
 けし師一たり町えやふ筆をあるえ
 柳葉くなくい知たり大食酒の
 入酒とつよくさくさく人々を
 守ふなりとるふつとさうてさ
 一きくひくあつて来てとあ
 君もひたりとてさうさんや
 まるさうさひくさくさうさひ

を殿君うらうていませははるやふ
 物いん大抱あへわうさふやんとつひま
 まははるううううううううううう
 おゆううううううううううう
 うううううううううううううう
 ふ大抱あうたりうううううう
 つうううううううううううう
 お大ううううううううううう
 ううううううううううううう
 ううううううううううううう

[illegible][illegible]

清きよりてしるものなりや侍へ
しといふ縁ゆふてなるものなり
まやふく大食細れ入調らん
あゝわもはうてくまゐるんと
ふらふふふふふふふふふ
帝子う侍する乙置、あなり
とこふふふふふふふふふ
う人うきくきくきくきく
らうきくきくきくきくきく
んきくきくきくきくきく

きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく
きくきくきくきくきくきく

わんわんわん

あせられゆふて備中寺實經
とつていせきじとせられ

いゝむすふも人々ありてはなるべ
くしてゆくべきなりと云ふに果してそ
うなればならぬといふなりと云ふても
ら多しなりと云ふなりと云ふなりと云
ふ都より一もみなあつたはなりと云
ふ。其儒都ともどもをさる智者、
おのれともまゐるなりと云ふなりと
ときめやと鳥羽院にて有りてもゆ
きはせんとするひきじりをもてあつた
そのゆゑにあの中絶え共部なりと云

えともわの殿なりいかにきまわらんを
あはれとてうらたふかやうにいた
らあまゝなりき宰相中お師一急や
申し其師よりかわかりよ宰相め
たゞもやう基後れあらむつ佐とし
ハ下節も順業とあらじむとあり
るばかりさうん共たあつ佐より欠る
けりてこれとあらしゆーとい
る人乃ぬ位にてやと終められら
しむあまゝもよくして人なり

るゝおきやあつらんてのうらう
いじまひつちやとんたつう
ぬすもろくでわりきたるのおき
ありとりあつらんてのうらう
山府主寛慶ときあらへともち
おもはれし御みさうやうに大乗坊
やうやく

多福如也

とふてあつかりてふたど大納言家通
名氏部とていふ大納言とて

佛よりいひぬとけりて
 まもひる
 ろくろく白川院中御書の人ふなり
 きあきなり大酒言をせしは
 一平
 あしをうかんばるるにそ
 行高僧正元
 ふわてとくにわきてゆかりたりとけり
 ち
 ち

草中くさくさ
とみえたりと
みえたりと

返しを以てするもつゝやえきう係

あゝいふにたふしつゝとにりて
しほくちつとすゝもあはれはな
とふとふとふとふとふとふと
まきはしつゝいゝとふとふと
あゝいふとふとふとふとふと
とふとふとふとふとふとふと
いふとふとふとふとふとふと
あゝいふとふとふとふとふと
しほくちつとすゝもあはれはな
とふとふとふとふとふとふと
まきはしつゝいゝとふとふと

あゝいふとふとふとふとふと
しほくちつとすゝもあはれはな
とふとふとふとふとふとふと
まきはしつゝいゝとふとふと
あゝいふとふとふとふとふと
しほくちつとすゝもあはれはな
とふとふとふとふとふとふと
まきはしつゝいゝとふとふと
あゝいふとふとふとふとふと
しほくちつとすゝもあはれはな
とふとふとふとふとふとふと
まきはしつゝいゝとふとふと

[illegible][illegible]

あゝとては師うあらまぐおひつとそ
ふいづれいまむともたしやうやあ
うらまうはよめ入道とうきくーとい
ふかといもぬるなりし

102

其しのちなるらん次席よりおい
ち―ちぬち侍通カゑりたりよ
詩なりつるりねるてくたりきり
おとふふねるりふふんさるめ
さへありさるりあもるらるやく

[illegible]

[illegible]

30

かた九条中民部卿の常より不々
予ん得候大細之由通じ申上之由

[illegible]

ふらふらわ〜いはいわ〜きまのり〜
と〜ゆゑあひつらは日づつろ〜てい
〜い〜はにけりなほはさめ〜しやせつえを
もれ〜うらぬんじやよ〜め〜て然
なつきをく〜る〜う〜へ〜はがよむ〜なる
ふ〜く〜あ〜まり〜の〜ふ〜と〜け〜作
ち〜けりつ〜き〜く〜ま〜ふ〜んのそ〜み
〜と〜け〜て〜さ〜ま〜はあ〜と〜けり
てまの〜し〜い〜ま〜く〜た〜ろ〜けりよう
の後あ〜し〜き〜な〜ろ〜て〜てあん

子と来多しなり。いづれとみたり。よと
 き。いづれなり。なほ。いづれ。地の。う。ぬ。お
 ち。て。あ。ゆ。い。て。あ。ゆ。い。て。あ。ゆ。い。て
 も。ふ。ま。ゆ。い。は。ら。と。さ。る。い。い。さ。と。つ。ふ
 け。り。き。け。と。ふ。ふ。と。さ。り。や。り。て。わ。の。た
 い。れ。う。は。と。あ。ゆ。い。て。あ。ゆ。い。て。あ。ゆ。い。て
 め。て。い。と。ま。り。中。に。お。席。の。つ。り。場
 ち。り。い。ま。ゆ。い。と。さ。り。い。ま。ゆ。い。と。さ。り
 ぶ。い。う。い。ま。ゆ。い。と。さ。り。い。ま。ゆ。い。と。さ。り
 ま。い。い。ま。ゆ。い。と。さ。り。い。ま。ゆ。い。と。さ。り

いきなりはるかにうらやましくおもひ
 こゝろ女房よりいそぎくさつひくかゝり
 けつろとわつそいおもひらぬきんとよし
 いきぬりてうけまゐりうらやましく
 こゝろ女房よりいそぎくさつひくかゝり
 けつろとわつそいおもひらぬきんとよし
 いきぬりてうけまゐりうらやましく

下といふ人なりいづれなりきこるるうお
 うなるなりとてさるる人らにまゐるるをせり
 いづれなりとて其さるる人らにまゐるるを
 せりとて大衆の心をさるるなり山の
 なる仁豪とていづれなりとて南勝房
 とていづれなりとて又律師なりとて二人
 ともなりとて又いづれなりとて侍従家信と
 てもいづれなりとて其の仁和寺なり禪教
 僧といふとて其の老を考へていづれなり
 おりといふとて其の年中細言なりとて

おおろをーと桑れゆーつしじとちの白
 河津東交りおろーとふ交と前と
 きふえゆーみー信りつとちゆく近久
 む年女ゆちの宣旨ーゆりちひお返まの
 女ゆと表しお非交ーとてまうりて
 うちゆへもまうりゆとちりあふ兼香
 殿女ゆやーとゆじとゆんた
 吾子れ内親とつとりーとまうてとてを
 ゆーとゆーとてまうてとちゆーとち
 七十一あするーとちゆりふーと女ゆい

[illegible]

ちよと實と一さ維平の天眞女の暖
 よあくとんちとまうらゝと和歌をも
 うらゝと知るときは知さるえうと
 ちよとまうらゝとあゝとさうと
 紅梅とさうとあゝとさうと
 えうとさうとあゝとさうと
 一さうとあゝとさうとあゝとさうと
 あゝとさうとあゝとさうとあゝとさうと
 ちよとさうとあゝとさうとあゝとさうと
 ちよとさうとあゝとさうとあゝとさうと

うきうきとてあそびてゐる女房
車はうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

うきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

うきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

うきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

うきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

うきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる
あまのうきうきとてあそびてゐる

またんいはのねをちね言のくうふ
いたうのたをゆくのきさきと
若君の待賢の院のありさういは
きさきうのきさきうのきさき
うのねのきさきうのきさき
たのねのきさきうのきさき
ものねのきさきうのきさき
あをねのきさきうのきさき
まのねのきさきうのきさき

えんを二位のゆのきさき
うのねのきさきうのきさき
おのねのきさきうのきさき
うのねのきさきうのきさき
えんを二位のゆのきさき
うのねのきさきうのきさき
おのねのきさきうのきさき
うのねのきさきうのきさき
えんを二位のゆのきさき
うのねのきさきうのきさき
おのねのきさきうのきさき
うのねのきさきうのきさき

しーるーあーふそ梅えり
たきーるーあーるさ

とけりふはいふるるー

福ーるたれさるるー

ふーいふるるるる

とけりるるるるるるるる

る下福るるるるるるるる

从中るるるるるるるる

るあーるるるるるるるる

あふさるるるるるるるる

てーる信るるるるるるる

るるるるるるるるるるる

はふるるるるるるるるる

るあふるるるるるるるる

いあーるるるるるるるる

庵入るるるるるるるるる

ーあふるるるるるるるる

るあふるるるるるるるる

ふーいふるるるるるるる

るあふるるるるるるるる

行

花ちり庭のおも

春交を去るは六席よりわかれし
 大長実徳を仰ぐことなる事
 山を度る女流のついでに
 二信を仰るなりとある人の
 表れしとて大寺をたゞしと
 なるなりといふもろくも
 といふ人なりなりなり
 一く傳つる人なりなりなり

[illegible]

[illegible][illegible]

きさし 侍なり 花人 花より 寧ろ
るるも 多し 中ねを うりし こと
いふも 多し 小ちを つんじや
衣大弁 なり うちを 多く せよ 物も あり 如
く とも 人も あり たり 侍は なる
もの 人 知れ なく なる も ぬら や たら
る 花より あり おもひ さま ごと 妙き て あ
ら ず かり く おり 又 花人 たり たり
き 一時 殿と 花一丁 地 日記 の
ひ は けり 日あて 小日記 なく 道へ

うき世にまじりてゐる

下力部

大乃如くして佛にまゝ後志中絶せしむ
 といわれしなりや人の心とてまゝしむ
 たがいまといひまの病交りありま
 といふにこの院志位乃佛よりきこふ
 ふくら如く西名の析みとパーナク
 そつより乞ひまゝにありふゆり志
 中より如くまゝ中絶するまゝいふ

方丈に在りてんとて

来而如

李方野

大乃如くして佛にまゝ後志中絶せしむ
 といわれしなりや人の心とてまゝしむ
 たがいまといひまの病交りありま
 といふにこの院志位乃佛よりきこふ
 ふくら如く西名の析みとパーナク
 そつより乞ひまゝにありふゆり志
 中より如くまゝ中絶するまゝいふ

うー佛のうらりそいらしきねふあとい
にあいふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

文城野の杖乃中老女帝親
なくくもさうきふきうせ

とうきくゆまういさういありまを
らまうまふゆまういさうあり
まうまふいありまを

[illegible]

[illegible][illegible]

たりいあやうみうみうみう

[illegible][illegible]

[illegible]

とてうらなひにわかれりかきしひを
女院にそとくまへてあつしひはま
にやうもなりあつしひはま
なりなり人恵にそとくまへて
とてうらなひにわかれりかきしひを
あま女院にそとくまへてあつしひ
とてうらなひにわかれりかきしひを
こころまへてあつしひはま
まへてあつしひはま
しひはま

うなるい花人歌より宰相より
ゆるんりも中へりりてりりり
とまふいりりりりりりりりり
多しゆもりりりりりりりりり
神樂りりりりりりりりりりり
りりり中おりりりりりりりり
とるりりりりりりりりりりり
にりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
もりりりりりりりりりりりり

うなるい花人歌より宰相より
ゆるんりも中へりりてりりり
とまふいりりりりりりりりり
多しゆもりりりりりりりりり
神樂りりりりりりりりりりり
りりり中おりりりりりりりり
とるりりりりりりりりりりり
にりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
もりりりりりりりりりりりり

[illegible]

とも又本院へもけりさねとてあつたを
 知るゆゑいゝあきなりとあるゆゑなり
 一 大七日夢見とていゝ内裏に参
 りまはしこの日は廢朝とて殿のまじひお
 ろふまじかりしことあるて夢にもれ
 るるにゆるゆるなり御門よりいゝ
 ぬめりていゝきしゆりてさへもつら
 ーなり又いゝいゝのちいゝ
 まうとて一年中御事の儘よりに
 こころそまりたりとて日暮なり

を月をいひていりせむと申したるも
し之日はつとてまことえつきの分
り文いふふも祓院とて物なれ由親
王とて一のりりい後よとあつて免
りていふひつとてうきやしりせ給ふ大治元
年七月廿六日うじつとてを給ふ八月
日親王の宣旨つり給ふ也兼元年六
月廿日いはま出つてを給ふ保元二年二月
廿五日よりとてより上西つ院とて一な
るなり兼暦二年二月十七日より一あり

りそふとていふえにふきりよりとてを
給ふもたつとて一とていふとてふるそ
らとて一とて給ふとていふりそ給ふとて多院
とていふりやゆん、の女院とていふれ祓院
とていふりあまをいふとていふとて一付ゆ
をらひを政をいふとていふとていふ
まのつとていふとていふり現一みそま
とていふりいふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとて

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written on a single page of aged paper.

Faint handwritten text, possibly a continuation of the letter or a separate entry, located below the main block of text.

Printed text at the bottom of the page, possibly a title or a reference mark.

九州大學圖書印



